2014年1月23日

産業別四半期見通し調査結果
（2014年1-3月期見通し）

■ 県内産業天気図

◇ **2013年10-12月期の現況**

➢ 全19業種中、『晴れ（好調）』が２業種、『薄日（順調）』が５業種、『曇り（普通）』が９業種、『小雨（低調）』が３業種、『雨（不調）』が該当業種なしとなった。

◇ **2014年1－3月期の見通し**

➢ 全19業種中、『晴れ（好調）』は２業種、『薄日（順調）』 が７業種、『曇り（普通）』が７業種、『小雨（低調）』が３業種、『雨（不調）』が該当業種なしと改善見通しの産業が多い。

天気図記号	2013年 7-9月期	2013年 10-12月期	2014年 1-3月期見通し
（好調）	0 業種	2 業種	2 業種
（順調）	4 業種	5 業種	7 業種
（普通）	11 業種	9 業種	7 業種
（低調）	4 業種	3 業種	3 業種
（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

■ 1-3月期見通しのポイント

➢ 製造業では、国内の景気回復や消費増税前の駆け込み需要のほか、北米を中心とする海外需要の増加から、自動車関連向けを中心に受注増加が続き、関連する工作機械や産業用機器、プラスチック製品等の受注増加が見込まれる。製品受注の増加に加え、今後の受注回復を見据えた設備投資の動きもみられ、薄日の企業が増加する見通し。

➢ 非製造業では、自動車販売や大型小売は消費増税前の駆け込み需要がピークを迎えるほか、機械器具卸では製造業の設備投資に伴う工具や機械器具の新規受注の増加が期待される。公共工事は引き続き高い水準の工事量を見込む。貨物は燃料費の高止まりや人員の確保が課題となるも、駆け込み需要や自動車・機械関連を中心に荷動きが活発になることから、貨物量の大幅な増加が見込まれる。

照　会　先
一般財団法人 長野経済研究所
調査部（担当：宮前、粂井、富井）
TEL 026-224-0501

＜産業別天気図一覧（19業種）＞

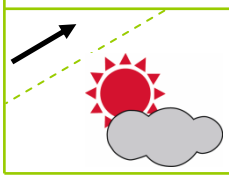
■　調査内容：「業界の現況」、「業界見通し」は、県内対象の企業経営者が業界の景気をどうみているかをアンケート調査とヒアリング調査を基に、当研究所が判断した。
■　調査期間：2013年12月中旬～2014年1月中旬　　■調査対象企業：県内主要企業19業種の161社

業　種	前期（7-9月期）	今期（10-12月期）	来期（1-3月期）	
工作機械	☁	🌤	↗	🌤
半導体製造装置	☂	☂	→	☂
産業用機器	☁	🌤	↗	🌤
電子部品・デバイス	☁	☁	→	☁
自動車部品	🌤	☀	→	☀
光学・計器	☁	☁	→	☁
プラスチック製品	☁	☁	↗	🌤
飲料製造（ノンアルコール）	🌤	☁	→	☁
清酒・ワイン	☁	☁	→	☁
味噌	☂	☂	→	☂
その他食料品製造	☁	☁	→	☁
機械器具卸	☁	🌤	↗	🌤
大型小売	☁	☁	↗	🌤
自動車販売	☁	☀	↑	☀
公共工事	🌤	🌤	→	🌤
民間工事	🌤	🌤	↘	☁
旅客	☂	☂	→	☂
貨物	☂	☁	↗	🌤
ホテル・旅館	☁	☁	↘	☁

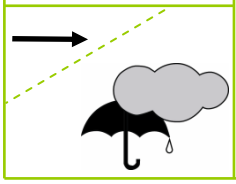
当研究所の注目産業

	見通しの注目ポイント
自動車部品製造	➢ 昨年秋以降、完成車メーカー各社が相次いで新型車を投入したことや、消費増税前の駆け込み需要から、完成車の売れ行きが好調に推移。海外向けでは北米向けが好調であり、円安効果もあって需要を牽引している。 ➢ 国内は年度末の需要期と、消費増税前の駆け込み需要が重なるため、ハイブリッド車や軽自動車などの新型の低燃費車向けを中心に、部品受注は順調に推移する見通し。 ➢ 国内向けの一部には、完成車の駆け込み需要に伴う部品受注が年度末までにピークを迎えるため、受注が減少に転じる懸念もある。 ➢ 海外向けは好調を維持する。特に北米や東南アジア向けが好調な見通し。中国向けも持ち直しの動きが出てきており、更なる受注増加が期待される。 ➢ 補修用部品も、底堅い中古車需要により、安定的に推移する見通し。
機械器具卸	➢ 政府の投資促進策などにより、FA機器など中小企業の設備投資も動き出しつつあるほか、消費増税に伴う駆け込み需要も予想される。 ➢ 工作機械は国内や北米などの新車需要が順調な自動車関連向けを中心に受注が増加している。 ➢ 工具類も、自動車部品製造業などを中心に、新規導入や更新需要が見込まれる。 ➢ 配線機器や分電盤などの電設資材は、一般住宅向けの需要が徐々に落ち着くものの、公共施設や病院関連の工事向けが増加しており、堅調に推移する。 ➢ 太陽光発電設備に関しては設置ニーズが高く、夏頃まで受注が埋まっている業者もみられ、好調に推移する。

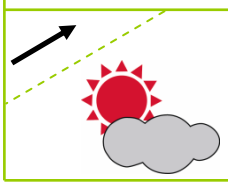
工作機械 ： 内需を中心に受注増加が見込まれる

現　況	国内は自動車関連向けを中心に機械設備需要が増加した。加えて、消費増税に伴う駆け込み需要の効果もみられた。また「ものづくり補助金」などを活用した中小企業の設備投資も徐々に動きがみられた。海外は自動車関連向けが順調な北米地域が需要増加をけん引した。欧州はドイツなどで機械需要が増加し、全体的に受注は持ち直しつつある。アジア地域では、東南アジアは自動車関連などの生産が堅調だが、中国は景気の伸びが鈍化して設備に過剰感があり、機械需要は低調に推移した。
見 通 し 	国内は自動車関連向けがけん引し、機械需要は増える見込み。消費増税前の駆け込み需要に加え、今後の受注回復を見据えた生産ラインの増強や老朽設備の更新といった投資の増加が予想される。海外は引き続き自動車関連の生産が旺盛な北米地域向けの受注が順調で、東南アジアも堅調に推移する。欧州は地域差があるものの、全体的に景気は持ち直し、機械受注も徐々に回復していく見通し。中国は依然として設備稼働水準が低く、機械需要は低調な推移が続く。

半導体製造装置 ： 国内の装置需要は引き続き低調に推移

現　況	国内の半導体関連製造は大手企業の不採算部門撤退や事業の縮小が続き、テレビやパソコンなど従来主要であった電子機器類が不振のため、装置需要は低調に推移した。スマートフォンやタブレット端末関連及び自動車向けなどの半導体開発・生産に伴う需要はあるものの、一部にとどまっている。海外は、台湾のスマートフォン関連の半導体製造などを中心に受注が堅調に推移した。また中国でも生産ラインの自動化に対応した加工用機械などの需要がみられたが、安価な汎用機械が主で、現地メーカーとの価格競争が続いた。
見 通 し 	国内はスマートフォンや自動車向けの半導体開発など、比較的付加価値の高い分野における装置需要が堅調であるものの、全体的には設備の過剰感から製造装置の需要は引き続き低調に推移する。海外は、スマートフォン関連で好調な企業が集積する台湾で半導体製造が順調に推移し、装置需要が見込まれる。中国も加工用機械などの需要増加が予想される。しかし、海外では汎用機を中心とした現地メーカーとの価格競争により、厳しい収益環境が続く。

産業用機器 ： 設備投資の増加により受注の回復が続く

現　況	北米向けを中心にした海外需要に加え、国内の設備投資も持ち直してきており、産業用機器の需要は改善してきた。自動車が需要をけん引しており、車載関連機器のほか、自動車向けのＦＡ機器も好調だった。ＦＡ機器は、台湾などの半導体製造装置向けでも受注が増えてきた。国内外で工場設備への投資も増加しており、空調機器などの受注も伸びてきた。ガスヒートポンプなど住設機器、設備機器なども、消費増税前の駆け込み需要で受注は増加傾向にある。
見 通 し 	国内外の設備投資の堅調が続き、産業用機器の需要は回復を続ける。ＦＡ関連機器や設備機器も国内外で設備投資案件が実行に移され、受注は増加する。引き続き北米景気の好調や国内の需要期で車載関連機器の需要は堅調に推移する。電気料金の値上がりなど光熱費のさらなる上昇見込みから省エネのための投資も行われ、省力化機器や空調機器の需要も増加が見込まれる。自動車や住設機器向けには消費増税に伴う駆け込み需要による上積みも期待される。

電子部品・デバイス　：　メーカーの在庫調整で需要は低下

現　況	スマートフォン、自動車、産業機械向け電子部品の需要は堅調に推移した。家電向けは低調を続けた。デジタルカメラ向けも、高級一眼レフに期待していたが、予想ほど伸びなかった。パソコン向けは、旧型ＯＳのサービス終了による企業の買い替え需要は見込み通り高まったが、スマートフォンやタブレット端末の急速な普及で個人向けの需要の落ち込みが大きく、低迷している。引き続きユーザーからの価格引き下げ要請強く、価格競争も厳しいが、円安による増益効果が価格低下をカバーした。
見　通　し	自動車、産業機械向けは堅調を維持する見通し。しかし、他の用途ではメーカーの期末に向けた在庫調整で需要は一時的に減少する。スマートフォン向けもモデルの端境期で、需要は当面落ち着く見込み。家電やデジタルカメラ向けは、消費増税前の駆け込みもそれほど期待できず、低調が続く。パソコン向けは、事業用の買い替えはピークを過ぎた状況で、個人向けの停滞と合わせて出荷量が減少し、受注減は続く。

自動車部品　：　海外向けを中心に受注は順調に推移

現　況	メーカー各社が相次いで新型車を投入したことや、消費増税前の駆け込み需要から、完成車の売れ行きは引き続き好調だった。そのため、国内向けの部品はハイブリッド車や軽自動車など新型の低燃費車向けを中心に好調な売り上げが続いた。海外は、新車販売が好調に続く北米や東南アジア向けの受注が順調で、売り上げをけん引した。中国向けでも持ち直しの動きが出てきた。一方、景気低迷が続く欧州向けは低調に推移した。補修用部品は底堅い中古車需要により、国内外ともに安定的に推移した。
見　通　し	国内は年度末の需要期と消費増税前の駆け込み需要が重なるため、新型の低燃費車向けを中心に部品の受注は順調に推移する見通し。ただし、一部には年度末までに駆け込み需要に伴う受注のピークが過ぎ、受注が減少に転じることや、円安による原材料価格などの上昇による収益率の低下も懸念される。一方で、海外向けは好調を維持し、全体としては順調に推移する見込み。特に北米や東南アジア向けが好調な見通し。中国向けでもさらなる受注増加に期待する。補修用部品も例年並みの需要があり、受注は安定的に推移する見通し。

光学・計器　：　産業向けを中心に底堅い受注が続く

現　況	デジタルカメラ関連では、需要低迷が続くコンパクトタイプのみならず、一眼レフなどの高機能製品でも需要が伸び悩み、受注低迷が続いた。スマートフォン関連では受注競争が激化し、厳しい受注環境となった。産業用レンズでは、海外向けを中心に半導体関連で高付加価値製品などが順調に推移した。完成車需要が好調な自動車向けの受注も順調だった。医療機器向けは安定した受注が続いた。計器類は、自動車向けの受注が順調だったほか、建設機械向けの受注で持ち直しの動きが強まった。ガス、水道などの住宅設備向けも底堅く推移した。
見　通　し	デジタルカメラは、コンパクトタイプ、一眼レフなどの高機能製品ともに需要が伸びず、関連部品の受注の低迷が続く見通し。スマートフォン関連の受注競争は続く見込み。産業用レンズは、半導体関連では海外向けを中心に高付加価値製品の受注が引き続き堅調に推移する見込み。自動車向けは海外需要を中心に、引き続き受注が好調に推移するとみられる。安定的な需要が見込める医療機器向けは底堅く推移する見通し。計器類の受注は、自動車向け、住宅設備向けでそれぞれ安定的に推移するとみられる。

プラスチック製品　：　駆け込み需要や海外市場にけん引され、受注水準は上昇

現　況	自動車関連では、ハイブリッド車など国内の完成車需要のほか、北米などの海外市場に支えられ、受注は順調に推移した。ＯＡ・情報関連では、複写機向けがトナーなどの消耗品が安定していた。パソコン向けは、旧型ＯＳの保守サービス終了を控え、法人向けを中心に買い替えが進んだが、受注増加は限定的であった。スマートフォン向けは、大手メーカーによる新製品の販売数量が期待したほど増えず、受注は落ち込んだ。容器類は、飲料用や食品用等のペットボトルの需要は安定しており底堅かった。
見 通 し	自動車関連では、消費増税前の駆け込み需要や北米などの海外需要から受注は増加基調で推移する見込み。ＯＡ・情報関連では、複写機向けは安定しており底堅く推移する見通し。パソコン向けは、消費増税前の販売増加への期待もあるが、タブレット端末等の人気に押され受注水準の低迷が続くとみられる。スマートフォン向けは、値下げ要請は強いものの、低価格製品の販売が伸びていくとみられ、関連部品の受注水準は上向く見通し。容器類では、在庫積み増しが予想され食品用のほか日用品など受注増加が見込まれる。

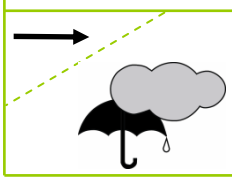
飲料製造(ノンアルコール)　:原料価格上昇を懸念するも、前年並みの販売を見込む

現　況	清涼飲料は、ミネラルウォーターや炭酸飲料は前年並みで推移した。しかし、11月から12月初旬にかけて暖かい日が続いたことから、ホット飲料では茶系飲料やコーヒーなどの販売が鈍く、全体として低調に推移した。果実・野菜飲料は消費者の健康志向を受け、前年並みに推移した。夏の猛暑や台風等の影響でりんごなど加工用に出回る原料果実が不足かつ高止まりしているほか、円安による燃料費の上昇から製造や輸送コストも増大しており、収益圧迫要因となった。
見 通 し	清涼飲料は全般に不需要期となるが、ミネラルウォーターや炭酸飲料のほか、需要期となるホット飲料とともに前年並みに推移する見込み。果実・野菜飲料も同様に不需要期であるが、前年並みの販売を見込む。原料果実を果汁に加工している企業は前期に続き繁忙期となるが、りんごなど加工用果実は依然不足しており価格上昇は続くとみられる。円安による燃料価格の上昇とあわせて、収益圧迫要因となることが懸念されるが、前年並みの受注は確保できる見通し。

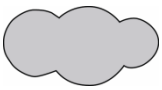
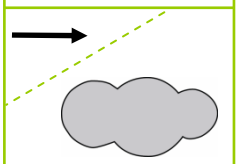
清酒･ワイン　：　清酒は収益環境の悪化を懸念、ワインは好調に推移

現　況	清酒・ワイン共に新酒が発売される需要期を迎え、前期よりも売り上げを伸ばした。清酒はほぼ前年並みの売り上げで推移した。販売量の大部分を占める一般酒の売り上げは依然減少傾向にあるが、純米酒や吟醸酒などの高価格帯の商品の販売が増加し、一部商品は早期に完売となった。ワインは引き続き消費者の裾野が広がっており、好調に推移した。銘柄・価格帯を問わず販売が増加したほか、信州産ワインの認知度の向上から、11月に都内で開催された県のワインフェスタも好評であった。
見 通 し	清酒は前年並みの販売を見込む。一般酒の販売は減少傾向にあるが、純米酒などの季節限定商品を継続的に発売して販売促進を図る。原材料や資材価格の高止まりを背景に、2月より一部県内メーカーが値上げを発表しており、今後追随する企業が出ることが予想される。ただ、酒造好適米の一部の銘柄が値上がりしているほか、円安による燃料費の上昇から、収益への悪影響が懸念される。ワインは新酒が出回る時期に比べるとやや需要が減少するが、消費者の裾野の広がりや信州産ワインの認知度向上から、前年を上回って推移する見込み。

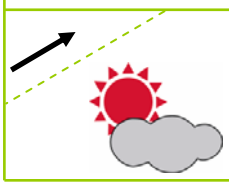
味噌　：　即席味噌は好調を見込むも、全体として厳しい収益環境が続く

現　況	需要期を迎え全体の売り上げは前年並みで推移したが、県内企業の多くにとって販売の中心となる生味噌については引き続き減少傾向にあり、無添加や塩分を減らした商品を除いて低調に推移した。大手メーカーを中心とする即席味噌では、13年秋に発売された新商品を中心に減塩など健康に配慮した商品が伸びたほか、国産原材料を用いて味にこだわった商品が好調に推移した。一方で、高止まりしていた原料大豆の価格が円安により更に上昇し、厳しい収益環境が続いた。
見　通　し 	冬場の需要期が続くが、生味噌については需要減少の傾向は続き、対前年では減少が予想される。即席味噌は需要が拡大傾向にあるほか、一部大手メーカーは減塩や健康増進作用のある新製品の投入を予定しており、販売増加が期待される。糀関連製品についても、新商品の投入やレシピの紹介等を通じて需要喚起を図る。原材料価格は大豆価格、原料米ともに高止まりが予想される。円安による燃料費の上昇も懸念され、厳しい収益環境が続く見通し。

その他食料品製造　：　収益の改善には価格転嫁が課題

現　況 	カップ麺など即席食品向けの具材は売り上げが前年に比べ増加したが、大豆や小麦粉など原材料価格が高止まり収益面は悪化した。キノコは鍋物をはじめ冬場の需要期に入ったことに加え、価格も前年と比べ堅調に推移し収益は改善した。漬物や加工食品に用いる中国産の原材料は、人件費上昇などの影響で価格が高止まり収益を押し下げる要因となった。大豆や小麦をはじめ原材料の多くは輸入で対応しており、円安の影響で仕入れコストは増加している。商品の値上げも難航し、製造コストの増加に価格転嫁が追い付かない企業もみられた。
見　通　し 	気温が暖かくなる春に向け、即席食品向けの具材は受注が減少する。例年、キノコは１月以降に消費が減少する傾向があるため、価格も低下していく見通し。漬物や加工食品の売り上げは前年並みの水準で推移すると見込むが、原材料価格の上昇が収益を押し下げる懸念材料となる。また、重油をはじめとする燃料費も高止まりが予想され、収益環境の厳しさは続く。納入先へ商品の値上げ交渉を継続して予定する企業も多いが、コスト上昇分の全てを価格転嫁できるケースは少ないとみられる。

機械器具卸　：　設備投資の増加から、受注は順調に推移

現　況	工作機械は国内や北米などの新車需要が順調な自動車関連分野を中心に、受注の増加がみられた。消費増税に伴う駆け込み需要や政府の投資促進策などにより、中小企業の設備投資も徐々に動き始めた。工具類も自動車部品製造業などで堅調に推移した。配線機器や分電盤などの電設資材は消費増税前の一般住宅や、公共施設・大型病院関連の工事などが増加し、受注は順調だった。太陽光発電設備関連も設置ニーズの高まりから、受注は引き続き好調に推移した。
見　通　し 	工作機械は自動車関連向けが堅調なことに加え、消費増税を見据えた駆け込み需要も予想される。工具類も同様に、新規導入や更新需要が見込まれる。電設資材は、住宅関連などの需要が徐々に落ち着くものの、公共施設や病院関連の工事向けが引き続き堅調に推移する。太陽光発電設備に関しては、夏頃まで受注が埋まっている業者もみられ、好調な状況が続く。機械器具卸業全体では、消費増税に伴う各種投資の前倒しもあり、受注は順調に推移する見通し。

大型小売　：　消費増税に伴う駆け込み需要が期待される

現　況	百貨店では、宝飾品や時計など一部の高額品は前年を上回る売り上げとなった。また、食料品は物産展等の催事が順調だったほか、お歳暮ギフトなどの売り上げも前年並みとなった。一方、衣料品は天候不順などの影響もあり冬物衣料が振るわなかった。スーパーでは、野菜や精肉など生鮮食品の売り上げが好調だったほか、クリスマスやおせち用品といった季節需要による売り上げも順調だった。一方、食料品など生活必需品に対する消費者の節約志向は根強く、競合店間は価格競争が続いている。
見 通 し	百貨店では、天候や曜日の並びに恵まれた初売りは、来店客数の増加から前年を上回る売り上げとなった。また、今後は消費増税に伴う駆け込み需要が見込まれることから、高額品を中心とした売り上げ増加が期待される。スーパーは、新規出店の予定もあり価格競争は今後も続くことが懸念されるものの、生鮮食品を中心とした食料品は底堅く、好調な推移が見込まれる。また、備蓄品や日用品などは消費増税に伴う駆け込み需要が期待されており、売り上げは前年を上回って推移する見通し。

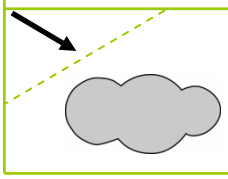
自動車販売　：　駆け込み需要で販売台数は好調に推移

現　況	自動車メーカー各社が積極的に投入してきた新型車を中心に、CMやチラシ広告など販売促進策を積極的に行ったことに加え、消費増税前の駆け込み需要も本格的に出始め新車販売台数は各月とも前年を上回った。特にボーナスシーズンを迎えた12月以降、その動きは強まり販売を後押しした。輸入車はセダンよりも低価格帯のハッチバックタイプがけん引し、販売台数は好調に推移した。中古車は県内で人気の高いSUVや４WDの入荷が少なかったものの、程度の良い軽自動車を中心に販売台数は前年並みに推移した。
見 通 し	年度末の最需要期を迎えることに加え、駆け込み需要もピークを迎えることから販売台数は好調に推移する。各社とも５％の消費税率を適用できる年度内の登録に向け、顧客に対し早期のアプローチで囲い込みを図っていく見込み。輸入車はハッチバックタイプなど売れ筋車種の在庫を多めに持ち、駆け込み需要に対応するディーラーもみられる。中古車は新型車への買い替えにより、良質な車両の仕入れが増えることが予想される。安定した仕入れにより品揃えも拡充されることから、販売台数も堅調な推移が続く。

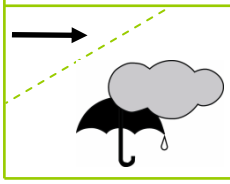
公共工事　：　工事量は堅調に推移するが、技術者の確保が課題

現　況	前期からの手持ち工事が豊富だったことに加え、新規に発注された工事も多く、工事量は前年水準を上回った。国・県では、道路、河川等の土木工事が目立って増加したほか、市町村では保育園の新設、教育施設の耐震化等の発注が相次いだ。工事量の増加に伴い、各事業者の受注額は伸びているが、全国的な公共工事の増加に伴い労務費、原材料費が上昇しており、利幅は縮小した。現場代理人や技術者の確保が困難な状況になっており、入札が不調となるケースも増加している。
見 通 し	1-3月期に新たに発注される工事は前年並みになるとみられるが、手持ち工事が多いため、工事量は引き続き高い水準が確保される見通し。新たに発注される工事は道路等の土木工事が中心になるが、南信では9月に発生した台風被害の復旧工事も増加が見込まれる。労務費、原材料費は今後も上昇傾向で推移する可能性が高く、工事採算の悪化が懸念される。収益面の厳しさは続くが、各事業者は選別受注や工期管理の徹底により利益の確保に努めていくとみられる。

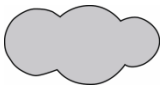
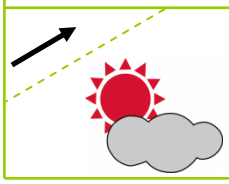
民間工事　：　新設住宅は駆け込み需要の反動により減少する

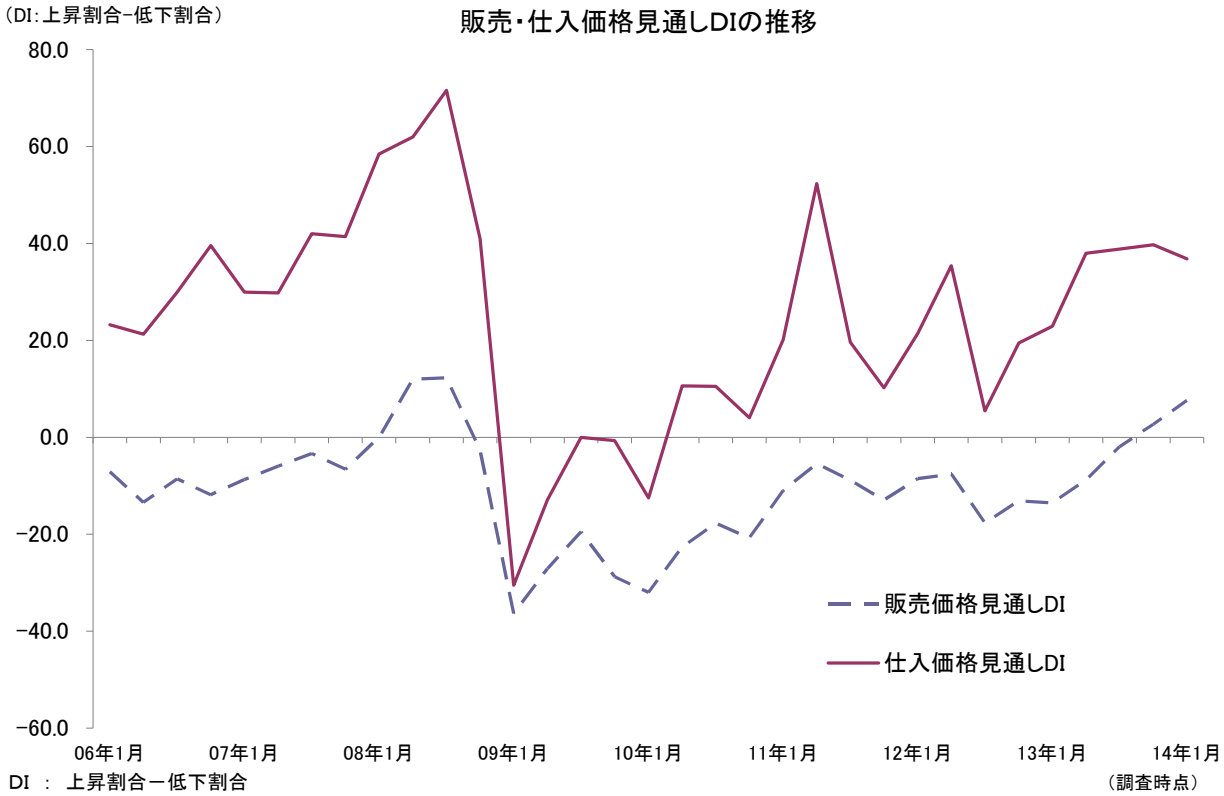
現　況	民間企業の設備投資は、非製造業では以前から好調だった医療・介護等に加え、サービス・流通などの幅広い分野から受注が増加した。一方、製造業では企業の慎重姿勢が続き、工事を伴う大型投資は少なく、受注量は低調であった。新設住宅は、駆け込み需要のピークを迎えた前期と比べると契約数は減少したが、3月末までに引き渡し可能な物件には現行税率が適用されるため、落ち込みは限定的であった。リフォーム工事は駆け込み需要の本格化により増加した。
見　通　し 	設備投資関連の工事は、企業の業績回復に伴い製造業からの受注も徐々に増えていくとみられるが、本格的な工事量の増加には至らない見通し。新設住宅は、駆け込み需要の反動による減少が見込まれる。ただし、増税後に引き渡される住宅に対しては、住宅ローン減税の拡充やすまい給付金などの負担軽減策が適用されるため、大幅な落ち込みは避けられるとみられる。リフォーム工事は、駆け込み需要が継続し、受注は順調に推移する見込み。

旅客　：　収益面は厳しいが、スキー客の利用増加に期待

現　況	観光バスは、秋季旅行シーズンを迎えツアーバスは前年並みの推移となった。修学旅行での利用も例年並みだった。高速バスは年末年始が長期の連休になったため利用客が増加した。新規路線を整備し利用客増加に力を入れる業者もみられた。タクシーは、年末年始の宴会等による法人利用が伸び悩んだ。乗合ジャンボタクシーの利用は好調で、帰省や観光地利用で客数を伸ばした。燃料価格は高止まりで推移しており、収益を圧迫した。
見　通　し 	観光バスは、高速バスを中心に週末の利用が期待される。スキーバスからより集客の期待できる高速バスに切り替える動きもみられるほか、新高速乗合バス制度に遅れて参入する業者との競合激化が予想される。タクシーは降雪に伴う利用も期待されるが、宴会等の利用は低調に推移し、売り上げは伸び悩む見通し。スキーシーズンを迎え、首都圏や関西圏からの乗合ジャンボタクシーの利用増加が期待される。燃料価格は高止まっており、収益面は厳しい見込み。

貨物　：　貨物量の増加に伴う収益の改善を期待

現　況 	全体の貨物量は前年水準を大きく上回った。自動車関連では、軽自動車・低燃費車向けの部品を中心とした荷動きが活発で貨物量は増加した。機械関連は、工作機械、建設機械ともに堅調で荷動きは上向いた。食品関連は、年末の需要期を迎えて増加し例年並みの水準となった。新規顧客からの受注や既存顧客からの増便の要請があっても、ドライバーや車両の不足により対応できないケースが多くみられた。燃料価格が依然高値で推移し、運賃の値上げ交渉は、新規先に留まり収益面では厳しさが続いた。
見　通　し 	自動車関連は、軽自動車・低燃費車向けを中心に、消費増税前の駆け込み需要等により貨物量は増加する。工作機械、建設機械等の機械関連は、堅調な設備投資により増加が期待される。食品関連は継続的な受注があり例年並みの荷動きとなる見込み。貨物の予約状況が好調で全体の貨物量は増加が見込まれるが、ドライバー、車両の確保が課題となる。貨物量の増加により、効率のよい運行計画や運賃の値上げ交渉が可能となり、収益改善が期待される。

ホテル・旅館　：　誘客要因に乏しく、利用は低調に推移

現　況	都市部のホテルでは、観光客、ビジネス客ともに宿泊利用は堅調に推移した。大規模な学会開催により、宿泊利用、宴会部門が好調だった地域もあった。ブライダル部門は、需要期であったが件数・規模とも前年並みにとどまった。秋の行楽シーズンを迎えた観光地の旅館では、個人客は例年並みの宿泊利用となったが、団体客は他の観光地との競合により低調だった地域もみられた。忘年会シーズンを迎え、宴会部門は需要期であったが、利用はやや伸び悩んだ。
見 通 し	都市部のホテルでは、ビジネス客は堅調を見込むが、オフシーズンを迎え観光客は減少するとみられ、利用は伸び悩む見通し。観光地の旅館では、年末年始の宿泊利用は好調であったが、2、3月は誘客要因に乏しく、全体としてはやや低調で、対前年並で推移するとみられる。新年会や歓送迎会は、前年と同程度の件数・規模を見込む。スキーや観光を目的とした外国人観光客は、円安を背景にオーストラリアを中心に堅調に推移する見通し。食材や燃料の価格が上昇しており、経費負担の増大が懸念される。